

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第十七主日礼拝

2020年9月27日

前奏：

招きのことば：詩編詩編 25:1-5

主よ、わが魂はあなたを仰ぎ望みます。わが神よ、わたしはあなたに信頼します。
どうか、わたしをはずかしめず、わたしの敵を勝ち誇らせないでください。
すべてあなたを待ち望む者をはずかしめず、みだりに信義にそむく者をはずかしめてください。
主よ、あなたの大路をわたしに知らせ、あなたの道をわたしに教えてください。あなたのまことをもって、わたしを導き、わたしを教えてください。あなたはわが救の神です。わたしはひねもすあなたを待ち望みます。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは私たちを愛し、イエス様によって罪を赦してくださることを感謝をいたします。私たちは自分の心をすっかりあけわたすことに抵抗します。そんなことをしたら自分の考えにあわないこともしなければならなくなるかもしれないと警戒します。自分の経験や知恵で何とかしようとしています。かたくなで愚かな私たちです。あなたを信頼しない私たちを、あなたはイエス様の愛によって少しずつ導いてくださり、私たちを悔い改めに導いて罪をすべて赦して下さり、新しい心をいただいて、喜んで神様と人々を大切にする歩みへと導いてくださいました。どうか、今週もあなたの恵みを味わい、あなたの愛と憐れみに目を留め、あなたの知恵と力をもって、家族に、お友達に、世界の人々に役立つ一週間を送らせてください。

私たちの教会を、いつもイエス様の赦しといのちに立ち返り、互いに愛し合い、高めあっていく交わりとしてお育てください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐべく緊張感を保ちながら、私たちは新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちをカづけてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：フィリピ 2章 1-13節

そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。

福音書朗読：マタイによる福音書 21章 23-32節

イエスが神殿の境内に入って教えておられると、祭司長や民の長老たちが近寄って来て言った。「何の権威でこのようなことをしているのか。だれがその権威を与えたのか。」イエスはお答え

になった。「では、わたしも一つ尋ねる。それに答えるなら、わたしも、何の権威でこのようなことをするのか、あなたたちに言おう。ヨハネの洗礼はどこからのものだったか。天からのものか、それとも、人からのものか。」彼らは論じ合った。『『天からのものだ』と言えば、『では、なぜヨハネを信じなかったのか』と我々に言うだろう。『人からのものだ』と言えば、群衆が怖い。皆がヨハネを預言者と思っているから。』そこで、彼らはイエスに、「分からない」と答えた。すると、イエスも言われた。「それなら、何の権威でこのようなことをするのか、わたしも言うまい。」

「ところで、あなたたちはどう思うか。ある人に息子が二人いたが、彼は兄のところへ行き、『子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい』と言った。兄は『いやです』と答えたが、後で考え直して出かけた。弟のところへも行って、同じことを言うと、弟は『お父さん、承知しました』と答えたが、出かけなかった。この二人のうち、どちらが父親の望みどおりにしたか。」彼らが「兄の方です」と言うと、イエスは言われた。「はっきり言うておく。徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう。なぜなら、ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは彼を信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じたからだ。あなたたちはそれを見ても、後で考え直して彼を信じようとしなかった。」

讚美歌 332 番

1. 主はいのちを あたえませり、主は血しおを ながしませり、
その死によりてぞ われは生きぬ、われ何をなして 主にむくいし。
2. 主は御父（みちち）の もとをはなれ、わびしき世に 住みたまえり。
かくもわがために さかえをすつ、われは主のために なにをすてし。
3. 主はゆるしと いつくしみと 救いをもて くだりませり。
ゆたけきたまもの 身にぞあまる、ただ身とたまを 献げまつらん。 **アーメン**

説教：「後で考え直して信じる」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様が当時の指導者たちとわたりあっておられます。そのときイエス様は明らかに正しくない仕事をしていた徴税人や娼婦たちがその指導者たちよりも先に神の国に入るであろう、と驚くべきことをおっしゃっています。神殿の境内で売り買いしている人を蹴散らしたイエス様に祭司長や長老たちがきで注意したのに、イエス様はどうして反論しているのでしょうか。秩序を乱して平気だったのでしょうか。私たちにも権威に対して何かにつけ反抗するように教えているのでしょうか。今日の箇所を理解するためには少しここまでの背景を知ることが必要のようですね。

かつてバプテスマのヨハネという最後の預言者が荒野で人々に悔い改めを迫って洗礼を授けていました。人々はヨハネは神が遣わした方だと思い尊敬しました。ヨハネ自身は私の後から来る方が私よりも偉大な救い主です、と言って、イエス様を指し示しました。

そのイエス様は、たくさんの人の病気をいやして、人生の問題や家族の問題、社会の問題を解決してくださいました。人々が手足や体が麻痺して苦しんでいる友達をイエス様のところに連れてきました。「子よ、あなたの罪は赦される。」と言われました。イエス様は心の中もご存知です。近くで見ていた律法学者がイエス様のことを悪く思っていたことを見抜かれました。罪の赦しは神様しか与えることができないのに、あなたは神を冒瀆するのか、と思っていたのです。そこで、イエス様はご自分が地上で罪を赦す権威をお持ちであることを知らせるために、この方に、立ち上がって歩いて家に帰りなさい、と言われました。人々はイエス様が罪の赦しの権威をお持ちであることを知ってとても驚き恐れましたが、そのことで神様を賛美しました。マタイによる福音書9章に描かれているお話です。

さて、イエス様はその後、都のエルサレムに入城しました。ろばの子にのって、柔和で謙遜な王として民に迎えられました。いよいよイエス様は私たちの罪を担って十字架にかけられる日が近づいていました。都にはいるとイエス様は神殿の境内に入って、そこで商売人達を追い出して、腰掛を倒して言われました。あなたがたは祈りの家を強盗の巣にしてしまっている。当時の人々は遠くから旅をしてエルサレムの神殿を訪ね、罪を赦してもらうためにいけにえにする牛や羊を買い求めるための両替をしていました。神様はやがて人々のために送ってくださる神の小羊であるイエス様が十字架で死んで血を流されるのを待っている長い間、動物の血をもって神様の罪の赦しを覚えるように教えていたのです。祭司長や民の長老たちは、神殿で人々が円滑に罪の赦しを得ることができるようにと民のために秩序を守っていたのです。ところが知らず知らずのうちに、その動物を買い求めるお金を両替する場所がだんだんと商売の場所になり、利権が伴って、騒がしい場所になってしまっていました。それで、イエス様は強盗の巣、と言われたのです。

これを見ていた祭司長や民の長老はイエス様のところへ行って、私たちが管理を任されている神聖な神殿で何ということをしてくれたのだ、私たちの権威に守られて人々は神殿で礼拝をしているのだぞ、あなたはいったい何の権威でそんなことをしたのだ、と詰め寄りました。イエス様はこの人たちに向き合ってお話してくださいました。少し長くなりましたが、今朝読まれたマタイによる福音書の21章にはこんな背景があったのです。

皆さん、バプテスマのヨハネさんは、人々に悔い改めるように迫り、神様を信じた人に洗礼を授けていました。人々はヨハネさんが神様から遣わされた立派な方だ、と尊敬していました。

そして、人々は心打たれ、それまでの罪を悔い改めて、続々と洗礼を受けていたのです。そのヨハネさんが、イエス様の来られることを指し示し、この方こそ救い主です、と紹介していました。

イエス様は神殿をまもる祭司長や民の長老たちがバプテスマのヨハネさんを認めていないことを知っていました。そこで彼らに尋ねたのです。ヨハネの洗礼は神様からのものか、ヨハネ自身の個人的な人間的なものなのか。祭司長や民の長老たちは、神様のものだ、と言えば人々ではなぜあなた方は悔い改めて洗礼を受けないのか、と矛盾を暴かれて信用を失うし、民が神様から遣わされた方として絶大な信頼を寄せているヨハネのことを人からのものだというと、暴動がおこるかもしれない、と恐れたようです。それでイエス様に「それはわかりません」と答えました。イエス様は罪の赦しを待ち望んでいた民に、悔い改めてイエス様を信じるように命がけで訴えたヨハネを退けて、さらに人々の機嫌を取っている祭司長や民の長老たちの答えを聞いて、それならわたしもあなたがたに何の権威で行っているかは言わないでおくと言われたのです。

父は自分のブドウ園で二人の息子たちに働いてもらいたくて誘いました。兄はいいえ、と答えてあとで心をいれかえて働きに出ました。弟はよい返事をしたのにあとで気が変わって働きにいきませんでした。徴税人や娼婦たちは神様に逆らった生活をしていましたが、バプテスマのヨハネのところで悔い改めて神様を信じ、罪の赦しをいただきました。兄のようです。それに比べて、祭司長や民の長老たちは、自分たちは神様に託された働きをきちんと行っている、神様に喜ばれている、と自負していましたが、ヨハネに耳を傾けず、悔い改めませんでした。そしてヨハネが紹介したイエス様をも責めているのです。

このような聖書のお話はいったい私たちに何の意味があるのでしょうか。ひとつは、私たちが知らず知らずのうちに祭司長や民の長老のようになっていないか、ということです。罪の赦しのために私たちは罪を悔い改めて、救い主であるイエス様を信じています。ところがなぜか自分の理解の枠組みの中でとらえ始めてしまい、いちいち悔い改めて、イエス様の赦しをいただくことから離れてしまいます。預言者イザヤはイザヤ書5章で神が民のためにブドウ畑を備えたのに、イスラエルの人々はそれをないがしろにして石垣を崩して踏み荒らされるに任せてしまった、と嘆いています。神様が与えてくださった最大のプレゼントであるイエス様を、私たちは自分の枠組みでとらえてはばからず、人々の圧力にはうまく立ち回ってよい顔を保とうとします。そのうえで私は正しい、というどうしようもないプライドで人をさばき、悔い改めようとしません。悔い改めてイエス様の赦しをいただき、イエス様を主として歩んでいったら、家族の中で浮いてしまい、社会では通用せず、人々から変に思われたら自分の人生は不幸になる、ほどほどにしておかなければ、と恐れてしまうこともあります。信仰と生活は別だ、と自

分に言い聞かせて神様の与えてくださった救い主を自分の小さな心配の枠組みに入れてしまいます。

イエス様は、そんな祭司長や民の長老たちの心をご存知でした。ヨハネを退けているのに、民の手前その気持ちにさえ正直になれない彼らの心の矛盾をご存知でした。実はそのように自分の身を自分で守ろうとする心が、神さまの贈り物であるイエス様による罪の赦しを得ることができなくなっていた原因だったのです。

心を尽くして、主により頼め、自分の悟りに頼るな。あなたの行くところどこにおいても主を認めよ。そうすれば主はあなたの道をまっすぐにされる。と箴言3章にあります。これは神様から絶大な悟りの心を与えてもらっていたソロモンのことばです。

自分の思いの枠組みの中で安全に歩むことを優先して、素直になれなくて、神様のまえに罪を悔い改めてイエス様の赦しをもらえなくなっている祭司長や民の長老たちに、イエス様はまずヨハネのメッセージを聞け、と言われていています。神様の前の自分のかたくなな罪深い姿を認める悔い改めです。神様はイエス様の十字架によってあなたの小さなプライドをやさしく処分して、イエス様の権威を信じて人の顔に縛られない豊かで解放された新しい心を今朝与えてくださいます。

イエス様は父と母を敬いなさい、と言われ、カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい、と言われました。神様があなたを地上の権威のもとに置かれて、あなたに使命を与えて、神様から託された愛の働きとして、目上の人を尊んで礼儀を保ち、進んで自分を磨いて人々の役にたって歩むようにと日常の歩みに遣わしてくださいます。神様からの赦しに支えられて、人々の間ではほんとうに謙遜に、また人々とともに歩むことを幸せと感じ、人々と心を通わせて歩む喜びに活かしてくださいます。

祭司長や民の長老たちは、このあとイエス様を殺してしまいます。マタイによる福音書ではそのことについて語られたイエス様のことばを次に記しています。主イエス様は自分を殺す人々のために祈られました。そしてその人々のせいで死んだのに、それをその人々の赦しのために死なれたと言われたのです。

今朝、自分の枠組みにイエス様を閉じ込めず、悔い改めてイエス様の赦しを受け取りましょう。安心して、イエス様を主として今週も歩みましょう。イエス様を信じて、人々を愛して歩みましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讚美歌 344 番 献金 献金感謝の祈り

1. 主とらえたまえ わが身を、主よ、みこころしめして、
日々まことをおしえて、はなちたまえ、罪より。
2. とらえたまえ、わが身を、われに宿りたまわば、
とわの愛をつたえて、地にみくにを来たらせん。
3. とらえたまえ、わが身を、主のみ手にぞおさめて、
またき道をひらきて、ゆかせたまえ、みもとに。
4. とらえたまえ、わが身を、みたしたまえ、みたまを。
わがすべてをささげて、こたえまつらん、みむねに。

アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。**アーメン**

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああみさかえよ。**アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。**アーメン**

後奏